



HEADLINE

- (1) 3月のマネートピックス
- (2) 今月の金利情報
- (3) コラム～★FPのひとりごと★～
経済的困窮の中での学資支援
- (4) FPコバさんの編集後記
ホームページで「便利なデータ集」を始めました。

●マネートピックス

- ◇財源特例法、衆院で再可決、定額給付金支給へ (3月4日)
1人あたり1万2000円(65歳以上と18歳以下は2万円)の給付金支給やETC搭載車の高速道路料金大幅引き下げ(土日祝の地方は上限1000円)などの景気対策が実現。
- ◇英中銀と欧州中央銀、政策金利を0.5%引き下げ (3月5日)
利下げ後の金利は、英国が年0.5%、ユーロ圏が年1.5%(英中銀は即時、ECBは11日から)。主要国の政策金利は歴史的な低水準に。
- ◇1月の経常収支、13年ぶりの赤字1728億円 (3月9日)
1月は正月休みで輸出額が減るが、今年は欧米の景気低迷による輸出大幅減で貿易赤字が膨らんだうえ、円高や国際的金利低下で投資収入も前年同月比3割減少と落ち込んだ(財務省・速報)。
- ◇2月の消費動向調査、消費者心理の悪化に歯止め (3月13日)
消費者心理を示す消費者態度指数が2カ月連続で上昇。ただし、水準自体は過去3番目に低いレベル(内閣府)。
- ◇米FRB、長期国債を最大で3000億ドル購入 (3月18日)
住宅ローン担保証券などの購入増額とあわせて、追加資金供給は合計で1兆ドル超。長期金利低下を通じて景気の一段の悪化を防ぐ狙い。この決定で長期金利は大幅低下、為替市場ではドルが急落した。
- ◇国交省発表の公示地価、3年ぶりに下落 (3月23日)
09年1月1日時点の公示地価は全国平均(全用途)で前年比3.5%下落。4年ぶりにすべての都道府県でマイナスとなり、東京や名古屋の中心部では10%超の下落地点も目立った。
- ◇米財務省、金融機関の不良債権買取りの枠組みを発表 (3月23日)
民間投資家の出資額に応じて、財務省が資本を、FRBとFDIC(米連邦預金保険公社)が融資・保証を提供してファンドを設立、不良債権や市場で買い手がつかない証券化商品を買取る。ローン債権の買取価格は入札で決定。最大1000億ドルの公的資金拠出。
- ◇09年度予算および税制改正関連法成立 (3月27日)
危機対応として「経済緊急対応予備費」約1兆円を組み込むなど異例の措置。過去最大規模の住宅ローン減税、環境対応車購入時の減税をはじめ1兆円規模の減税。財政健全化に向けた制度改革は後退。

●金利データ

	2009年4月3日現在	前月比
政策金利(無担保コール翌日物)	0.10	→
公定歩合	0.30	→
短期プライムレート(都銀 最頻値)	1.475	→
長期プライムレート(みずほコーポレート銀)	2.25	→

<主要国 政策金利>

米国FFレート(誘導目標値)	0.0~0.25	→
EU/ECB主要政策金利	1.50	▲0.50

※ECBは4月2日0.25%利下げを発表、1.25%に(8日から)

◆貯蓄

*年平均利回り

三菱東京UFJ銀行	普通預金		0.040	→
	貯蓄預金(10万円以上)		0.050	→
	スーパー定期預金(300万円未満)	1ヵ月	0.150	→
		1年	0.250	→
		3年	0.250	→
外貨定期 1年	米ドル	0.280	▲0.08	
	2000米ドル相当額以上	ユーロ	0.250	▲0.25
	3万米ドル相当額未満	豪ドル	1.720	▲0.28
ゆうちょ銀行	通常貯金		0.05	→
	定額貯金	3年以上	0.250	→

野村証券	MMF(運用実績)		* 0.279	→
	外貨建てMMF(運用実績)	米ドル	* 0.386	→
		ユーロ	* 0.723	→
		豪ドル	* 2.677	→

国債	個人向け国債(4月)	固定・5年	0.71	▲0.09
	募集終了 次回は6月募集	変動・10年	0.50	▲0.08
	利付国債10年(299回/4月発行)		1.3	→

◆ローン

フラット35は金利に保証料相当分を含む

住宅ローン(三菱東京UFJ銀行)	変動型	2.475	▲0.40	
		固定・5年	3.550	+0.15
		固定・10年	3.750	+0.15
	フラット35	保証型	4.210	+0.24
買取型		3.300	▲0.03	
フラット35(買取型)	21年以上	2.950~3.940	→	
	20年以下	2.720~3.710	→	

赤字国債の増発懸念から長期金利が上昇、大手銀は固定期間のある住宅ローン金利を引き上げた。欧州ECBは3月、4月と2カ月連続で利下げを行ったが、ユーロは堅調。G20金融サミットの協調路線確認で欧米の景気底割れ懸念が薄らぎ円が急落、4月3日には一時5カ月ぶりに100円台の円安に。



経済的困窮の中での学資支援

～大学教育費はいくらかかるか、奨学金・教育費ローン的高手

高校卒業後の進路として大学・専門学校を選択した場合、保護者の皆さんがもっとも気になるのは、進学に伴う学費等の経済的な問題ではないでしょうか。

では、実際に、進学するのにどのくらい費用がかかるのか確認してみましょう。

日本政策金融公庫が平成20年に調査した「教育費負担の実態調査」(図1)によると、受験から入学までの費用は子ども一人あたり約70万円から約100万円もお金がかかることになります。入学してからも毎年約150万円もお金がかかります。

図1[教育費用]

	入学費用	在学費用
大学	956,000円	1,504,000円
短大	731,000円	1,431,000円
専修・各種学校	862,000円	1,463,000円

※日本政策金融公庫国民生活事業本部個人融資部「教育費負担の実態調査結果(平成20年10月)」より

図2[教育費の捻出方法]

- 1位 教育費以外の支出を削っている
- 2位 奨学金を受けている
- 3位 子どもがアルバイトをしている
- 4位 預貯金や保険などを取り崩している
- 5位 残業やパートで働く時間を増やしていた
- 6位 借入をしている
(国の教育ローン、金融機関、勤務先)
- 7位 共働きを始めた
- 8位 親戚から援助してもらっている

※日本政策金融公庫国民生活事業本部個人融資部「教育費負担の実態調査結果(平成20年10月)」より

高額な進学資金を捻出するにあたり、家計の見直しや収入を増やすなどの方法が考えられますが(図2)、現実にはなかなか困難な問題です。

そこで、検討したいのはお金を借りるという選択肢です。国では進学のお金を支援するために日本政策金融公庫の「国の教育ローン」と日本学生支援機構の「奨学金」を用意しています。

日本政策金融公庫の「国の教育ローン」と日本学生支援機構の「奨学金」(図3)とでは利用する場面が異なります。最近では、推薦入学やAO入試を受験する生徒数が一般入試を受験する生徒数を超え、それに伴い、入学手続きに必要なお金を納付する時期が早まっています。10月頃には私大生の場合約100万円(入学金、前期授業料、施設費など)が入学手続きに必要なになります。

保護者の中には、入学納付金を合格通知を受け取ってから2週間程度で納付しなければならないことをご存知ない方も多く、子どもがせっかく合格したにもかかわらず、保護者が入学の納付金を準備できないために子どもが進学を断念せざるを得ないといった事態が毎年あります。

図2[教育費の捻出方法]

- 1位 教育費以外の支出を削っている
- 2位 奨学金を受けている
- 3位 子どもがアルバイトをしている
- 4位 預貯金や保険などを取り崩している
- 5位 残業やパートで働く時間を増やしていた
- 6位 借入をしている
(国の教育ローン、金融機関、勤務先)
- 7位 共働きを始めた
- 8位 親戚から援助してもらっている

※日本政策金融公庫国民生活事業本部個人融資部「教育費負担の実態調査結果(平成20年10月)」より

入学納付金のためには「教育ローン」を利用します。「教育ローン」の審査は時間がかかりますので、お金が必要な時期の3か月前ぐらいには申し込むことがポイントです。

日本学生支援機構の「奨学金」は入学前の費用のためには利用できません。入学後毎月振り込まれます(ただし、初回は5月又は6月)ので学費や毎月の生活費などに利用できます。

このように「教育ローン」と「奨学金」は利用する場面が異なりますので上手に使い分けしましょう。

CFP 新美昌也

●FPコバさんより

今まで、ホームページで気になっていたのは、データ集が無かったことでした。これを作る努力も大変、メンテナンスも大変だからです。しかし、自分のノートにはいつの間にかデータ集をメモしていました。だったら、ノートをやめて、ホームページに書き込めば、良いじゃないか……、と言う訳で始めました。<http://kobayashi-am.jp>
現在、完成度は40%程。皆さんのお役に立てるデータ集にしたいので、ご意見を下さいね。